

《担当者名》 佐々木 敏明（客員）toshiaki-s@hoku-iryo-u.ac.jp 奥田 かおり

【概要】

「精神保健学とは？」という問からはじめるこの講義では精神保健の定義（広義・狭義）を探索しながら精神面での保健を幅広い視点から捉え、人々の心身の健康をいかに維持し、増進していくかを考える。自分自身の精神の健康への理解を深める。

【学修目標】

1. 精神保健の定義を把握し、精神の健康の保持、増進についてその基礎知識を理解する。
2. 自分自身のライフサイクルを理解し、精神の健康の維持、促進に励むことができる。
3. 精神保健学は本学のディプロマポリシーの、「DP2」の要素を満たす科目であり、福祉専門職に必要な知識を修得することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の目的と内容の説明 ライフサイクルの定義をもちいて「自分を知る」ということの意義について理解する	佐々木・奥田
2	精神保健の概要・定義	日本、世界における広義・狭義について知る 法律のなかでの精神保健の定義について理解する 精神保健に関する法律の中の文言をグループディスカッションを通じて批判する	奥田
3	精神保健の歴史的背景・課題	社会構造の変化と新しい健康感を認識する 日本の精神保健の歴史について動画を鑑賞しテキストで予習したことと関係づける	奥田
4	ワークショップ	エンパワメントの概念について理解する 自己理解のためのグループワークを体験し、ディスカッションを通じてエンパワメントについて批判する	奥田
5	ライフサイクルと精神の健康	ライフサイクル理論を展開したエリクソンについて理解を深める。 8つの発達段階について自分のライフヒストリーと関連づける	奥田
6	ライフサイクル	出生前・胎児期・乳児期にほける発達課題とその時期に発生しやすい精神保健の課題を知る	奥田
7	ライフサイクル	幼児期・学童期の発達課題とその時期に発生しやすい精神保健の課題を知る	奥田
8	ライフサイクル	思春期における発達課題とその時期に発生しやすい精神保健の課題を知る	奥田
9	ライフサイクル	青年期・成人期における発達課題とその時期に発生しやすい精神保健の課題を知る	奥田
10	ライフサイクル	当事者の講話を聴き、青年期の精神障害について理解を深める 当事者とのディスカッションを通じて精神保健ソーシ	奥田 土屋 大（特別講師）

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ヤルワークにおける課題について批判する	
11	ライフサイクル	壮年・中年・老年期における発達課題とその時期に発生しやすい精神保健の課題を知る	佐々木
12	ストレスと精神の健康	生活習慣と精神の健康の関係性について理解する 自分自身のストレスの要因となるものを分類し、またストレスに対する耐性について評価する	奥田
13	精神の健康、疾患、身体の疾患に由来する障害	「障害」の定義について考察する ICFについて理解する 事例を用いて「障害者」をICFの視点から批判する	奥田
14	ワークショップ	権利を知るワークショップ：子どもの権利条約から人権について理解する グループディスカッションを通じて日本・世界の子どもの人権が享受されているかどうかを吟味する。	奥田
15	精神保健学 まとめ	この授業で学んだことを振り返る	奥田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート2回 1回目：10% 2回目：50% ゲストスピーカーへのリアクションペーパー 10%
授業への参加姿勢 30%

【教科書】

「新・精神保健福祉士養成講座2．精神保健の課題と支援」 中央法規

【参考書】

「幼児期と社会 1」E.エリクソン みすず書房

「幼児期と社会 2」E.エリクソン みすず書房

【備考】

精神保健福祉士国家受験資格取得のための「精神保健の課題と支援」に該当する。スクールソーシャルワーク教育課程の追加科目に該当する。

【学修の準備】

授業の前に授業内容に該当する箇所のテキストを読んでおくこと（45分程度）。
授業を受けた後は必ず復習して要点を整理しておくとともに、疑問点は次回に質問すること。
単に知識として学ぶだけでなく、自分の心の状態や人格形成の歩みと照らし合わせながら受講すること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,3

【実務経験】

佐々木敏明（ソーシャルワーカー）奥田かおり（ソーシャルワーカー）

【実務経験を活かした教育内容】

佐々木敏明： 精神保健福祉領域（行政・医療機関）での実務経験を通じて得た知識・技術等を活用し実践的な教育を行う。
奥田かおり： 社会福祉施設（母子生活支援施設）、精神保健福祉領域（医療機関）などでの実務経験を活かしアクティブラーニングスタイルで実践的な教育を行う。